

校長印	教頭印	教頭印

プログラミング シラバス

科目担当者 田場 正寛 新垣 了

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
プログラミング	2	1	全	必須	情報処理科

1 概要及び目標

- (1) プログラミングに関する知識と技術を習得させる。
- (2) プログラムの役割や重要性について理解させる。
- (3) ビジネスの諸活動においてコンピュータを合理的に活用する能力と態度を育てる。

2 使用教科書・教材

最新プログラミング～オブジェクト指向型言語～【324実教出版】

3 授業の展開と形態

チームティーチングで授業を実施。
学習内容に応じて、一斉授業またはグループ学習を行う。

4 学習方法

- (1) 教科書の内容に応じて実習と座学を行う。
- (2) 模擬試験問題集を活用し、情報処理検定プログラミング部門1級の取得を目標に取り組む。

5 成績評価

定期テスト、学習態度、検定試験、提出物等を総合的に評価する。

定期考査50%	提出物等20%	授業態度・発表20%
---------	---------	------------

6 その他(履修上の注意)

教科書、問題集、ノート、筆記用具の準備をすること。

7 観点別評価の趣旨

評価の観点・内容		評価の方法
関心・意欲・態度	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングについて関心をもち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する学習に自分からすすんで取り組むことができる。	観察(Eclipse・問題集など) 定期考査
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動によって生じた情報を的確に把握し、プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を活用して、効率的なプログラムを作成するために、様々な角度から考察しようとする。	観察(Eclipse・問題集など) 実習(Eclipse) 定期考査
技能	プログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、基礎的なプログラムを作成することができるとともに、応用的な技術をさらにすすんで活用しようとする。	観察(Eclipse・問題集など) 実習(Eclipse) 定期考査
知識・理解	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、ビジネスの諸活動に関する情報を合理的に処理し、活用する方法を理解している。	観察(Eclipse・問題集など) 実習(Eclipse) 定期考査

8 プログラミング学習計画

月	学習内容	時間	単元のおもな目標	実習・演習・教材等	評価方法等
4	ガイダンス	1	授業の目標および進め方を理解する。		
	1 コンピュータとプログラミング (1)ビジネスと情報処理システム	2	①ビジネスの諸活動と情報処理システムの関わりについて関心を持ち、データ処理の仕組みや役割の重要性を理解する。		
	2 プログラミング基礎 (1)プログラミングの手順	3	②Java言語の特徴を理解するとともに、データ処理に必要な一連のプログラミング手順を把握する。		
5	(2)データの入出力と演算 実習	7	③コンソールへの出力を行うプログラムを作成し、基本的な演算やデータの入力方法など、変数を利用して処理を行うプログラム技法を身につける。	データシート スペーシングチャート フローチャートシート コーディングシート 各種シートの作成	提出物 定期考査
6	(3)アルゴリズムの表現技法 構造化定理 (順次・選択・くりかえし)	7		例題2-12 三角形の面積	定期考査
7	(4)条件判定とくりかえし処理 実習 (4-1)判定(IF文)	12	④アルゴリズムについての一般的な概念を理解するとともに、プログラミングにおいてよく使われる制御文についての構造を理解させ、正しくプログラミングできる技法を身につけさせる。	例題2-13・14	
9	(4-2)選択(switch文) (4-3)一定回数のくりかえし(for文) (4-4)条件によるくりかえし (while・do・break・continue文)		※実習を通して、プログラミングに必要なハードウェアおよびソフトウェアの操作技術を身につける。	例題2-15・16 例題2-17・18・19 例題2-20・21・22・23・24	定期考査
10	3 プログラミング応用 (1)メソッドの利用 (2)配列の利用 実習 (集計・探索・順位付け・並べかえ)	18	⑤テーブルを利用した各種のプログラミング技法を身につけるとともに、テーブルの有用性について考察を深める。	例題3-1・2 実習3-1 例題3-3・4・5・6・7・8	
1	※2級検定対策	10	⑥問題集を通して、理解度を高める。	情報処理検定 1月29日(日)実施	定期考査 検定
2	グループ演習	10	※実習課題を通して、知識および技術の定着を図る。 ※グループ演習を通して、グループの協調性を身につける。	グループ編成	定期考査
3				演習問題(2題)	
合計		70			